

おりづる全国証言会 # 2

開催日：2018年8月10日（金）

開催場所：都内の不登校の義務教育年代の子の居場所

対象：スタッフ含むメンバー6名（小中学生）

証言者：小谷孝子さん

証言会の内容

- ワークショップ：原爆ってなんだろう（60分）
- 小谷孝子さんによる腹話術での被爆証言（30分）
- 振り返り（20分）

広島と長崎の原爆の日と同じ週の8月10日（金）、都内にある、不登校の義務教育の年代の子のための居場所にお邪魔をして、小さな証言会を開きました。今回証言会に参加してくれた被爆者は広島で被爆をした小谷孝子さんです。ピースボートからは畠山澄子と堀口恵が参加をしました。

今回はたっぷり2時間時間が使えるということで、事前にスタッフの方と打ち合わせを重ね、休憩や振り返りの時間もしっかりとった証言会のプログラムをつくりました。途中でクイズをはさんだり、少し考えてもらう時間を設けて意見を言ってもらったり、質問を出してもらって答えたりと、一方通行にならないような会づくりを心がけました。

まずはピースボートスタッフの畠山が導入のためのワークショップを行いました。前日8月9日（木）の新聞を見せて、「昨日は長崎で平和祈念式典が行われましたね」というところから。8月6日と9日が今でも多くの人にとって忘れることのできない日であり、広島と長崎には毎年核兵器が二度と使われないようにと願う人たちが多く集まることを説明します。その後「原爆」「核兵器」と聞くと何を連想するかをポストイットに書きだしてもらいました。みなさんは迷いながらも「第二次世界大戦」「黒い雨」「熱」「北朝鮮」・・・などと思いついた言葉を書いてくれました。畠山はこれらの言葉を拾いながら参加しているみなさんが知っていることを整理していきます。その上で、スライドで写真などを見せながら、広島と長崎におとされた原爆の種類や原爆がもたらした被害を説明していききました。途中で「あなたがアメリカの大統領だったらどうしますか？」という質問や、「自分の母親が生き埋めになっている中で『あなただけでも逃げなさい』と言われたらどうしますか？」などの問いも投げかけました。みなさんそれぞれに一生懸命考え、意見を述べてくれました。この時間の最後には、「正義」ということの難しさについても考えました。自分にとっての正義が必ずしも相手にとっても正義であるとは限らない、世の中には正解がないことが多いけれど人の命が軽んじられることはあってはいけないというメッセージを強調しました。

前半がおわると休憩&質問タイム。「放射能ってつまりなに？」「なぜ日本は各兵器禁止条約に参加しないの？」「銃はなぜなくなるしないの？」など、たくさんの質問があがりました。これらの質問には抑止力という考え方や核の傘といったことも説明しながら答えていききました。

原爆や核兵器をめぐる事情について少し理解が深まったところで後半では小谷孝子さんの被爆証言を聞いてもらいました。幼稚園教諭を長くやっていた小谷さんは、幼稚園に勤めていた時代に習得した腹話術で被爆証言を伝えています。今回の証言会にもパートナーのあっちゃんと一緒に来ていただきました。みんな「あっちゃんーん」と呼ぶと小谷さんがあっちゃんとともに登場。かわいくもこわいような見かけのあっちゃんですが、小谷さんとともに話し出すとその落ち着いた二人のやりとりにその場にいた全員がのめりこんでいくのがわかりました。

小谷さんが被爆したのは5歳、国民学校1年生の時です。本来であれば8月6日のお昼に田舎に疎開することになっていたそうです。きょうだい4人で川に泳ぎにいこうとしていたところ、小谷さんだけ喉が渇い

たので家に引き返し、家の下敷きになったもののかすり傷程度ですみました。一方で外にいたお姉さんは全身やけど、お兄さんは爆風で頭や体にガラス破片が刺さって血だらけでした。広島市内は火の海で、たくさんの人々が家の前を通りながら「水をちょうだい」と言ってきたそうです。弟さんはなかなか見つからず、ようやく見つかったその顔は真っ黒。お母さんがきれいにしようと顔を拭くと顔の皮がずるっと剥けて垂れ下がってしまったといいます。原爆から4日後の8月10日の朝、意識がなかった弟さんがようやく目を開きました。お母さんが水を飲ませると「飛行機は恐ろしいね。お水は美味しいね。」と一言残して3歳で亡くなったそうです。小谷さんは証言の中で、戦後お母さんが原爆孤児のお世話をしていた話もしてくださいました。小谷さんは自分のことはかまってくれずによその子のお世話をしに行く母親に泣きついたことがあるそうですが、その時に言われた言葉は「わがままはいい人さんな。あなたたちは夜になるとお母ちゃんは帰って来るでしょう。島にいるあの子たちはもうなんぼ待っても2度と親は帰ってこんのよ」というものだったそうです。

小谷さんの証言を聞いたあとは振り返りタイム。「こわかった」「イライラした」「心配になった」「不安になった」「嫌だと思った」「うれしかった」「複雑な気持ち」など、いくつもの「気持ち」を書いたシートを渡し、該当する「気持ち」に丸をつけてもらいます。その上で、なぜそのような気持ちになったのかを考えてもらいました。

会の最後には堀口からまとめのメッセージ。自分が中学校のあとに高校に行かずにピースボートの地球一周の船旅に参加したことなども話しながら、たくさんの人と出会い、色々な意見に触れ、異なる物の見方を知ることが大事だと伝えました。



居場所スタッフの感想

二つの構成でお話しいただいたことで、原爆とはどのようなものかまず知ることが出来て、その後に、その時、そこに、実際に個人の暮らしや人生があったことが実感できたことが、被爆の歴史のことを初めて知る子どもたちにとって、自分の中で考えやすくなったように感じました。

社会の授業への苦手意識が強い子や、修学旅行で原爆ドームに行く機会を逸してしまう子も多いところ、今回、「戦争や平和」について机上の勉強だけでは出来ない、「考え感じる時間」を作ることが出来ました。その後みんなで、第二次世界大戦以降どのような紛争があったか調べるワークをしましたが、原因は宗教や民族の対立、資源の奪い合いというそれぞれの理由はあるながら、その国の人がどんな思いかという事実も今後知っていきたいです。社会には間違っていると感じてみてもすぐに解決できないことがある、自分の身の回りで望まない対立が起こることもある、立場が違えば「普通」が違うこともある、周りとの考えが違って自分として選択を迫られることがある…。居場所のみんなが、今から将来のことを考えて不安や暗さを感じることもあると思いますし、これから居場所から出た先で困難な状況に直面することもあるでしょう。そんな時、それでも自分はどうするか、自分の経験から、「周りとの違和感や自分が傷つく気持ち」を知っている居場所の一人一人だからこそ、自分には何が出来るか、今回学んだこと・考えたことを思い出し、力にしてほしいと願っています。